資料２-1

第２次寒川町スポーツ推進計画

前期

（令和３年度～令和６年度）

令和３年３月

寒川町

目　次

第１章　計画策定にあたって

1　計画策定の趣旨 …… 1
2　計画の位置付け …… 2
3　計画の期間 …… 3

第２章　町のスポーツを取り巻く状況

1　アンケート調査からみる状況の変化 …… ４～９
2　活動団体の状況 …… １０～１１
3　スポーツ施設の利用状況 …… １２～１６
4　中学校部活動の現状 …… １５～１８

第３章　前計画の評価における今後の課題

1　前計画の３つの目標 …… １９
2　評価と課題 …… ２０～２３

第４章　基本理念・基本方針

1　基本理念 …… ２４
2　基本方針 …… ２５
3　体系図 …… ２６

第５章　施策の展開と指標

1　施策の展開 …… ２７～３０
2　成果指標及び進行管理 …… ３１～３２

第６章　計画推進のために

1　推進体制 …… ３３
2　役割 …… ３４～３５

第１章　計画策定にあたって

1　計画策定の趣旨

本町では、平成 24 年７月に「寒川町スポーツ推進計画」を策定し、町民のだれもが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、健康で笑顔あふれる地域社会の実現を目指して、さまざまなスポーツ振興策を展開してきました。

この間に、平成 29 年３月に国が策定した第２期「スポーツ基本計画」には、地方公共団体においても、同計画を参酌し、スポーツ施策の具体的な方向性を示すものとして、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となって施策を推進していくとの記述が盛り込まれました。

また、神奈川県においては、平成 29 年３月に「神奈川県スポーツ推進条例」を制定し、この条例制定に基づき、県が総合的かつ計画的に取り組む施策を示した神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ！かながわプラン」が策定されました。

こうした中、令和元年に開催されたラグビーワールドカップ 2019 において、史上初の８強入りを果たした日本代表の活躍は、日本中を感動と興奮に包み、「ONE TEAM（ワンチーム）」を合言葉に、チームの結束、絆を示し、スポーツの素晴らしさを教えてくれました。

新型コロナウイルス感染症の影響で１年延期され、令和３年の夏に開催される東京 2020 オリンピック競技大会では、日本人選手の活躍が期待されていますが、本町からもＢＭＸレーシングにおいて、初めてのオリンピック代表選手が選出されるなど、スポーツの機運は一層の高まりを見せており、本町において、健康増進、スポーツ活動を推進するうえで、千載一遇の機会となっています。

一方、基本的な人口構造を国とほぼ同じくする本町にあっては、2040 年頃において多様かつ急激な人口構造の変化が予想されていますが、町民のこころ豊かな暮らしを実現するために最優先に取り組むべき課題として、「急激な人口減少・少子高齢化」への対応があげられます。

その一環として、平成 28 年３月に地域の持続可能性を有した、魅力ある町であり続けるために、「寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定、また、平成 30 年２月に本町の「認知度の向上」と「移住・定住の促進」を目的に、本町の価値や本質を表現した「『高座』のこころ。」をブランド・スローガンに掲げるなど、他の自治体との差別化、価値向上に向けた取り組みを進めてきました。

また、若い世代に注目のあるホイールスポーツを核としたストリートスポーツの環境を整備し、他の市町村にない新たな魅力として地域活性化につなげていくという方向性を明らかにした「スポーツを取り巻く新たな環境整備に関する基本方針」を令和２年２月に策定しました。

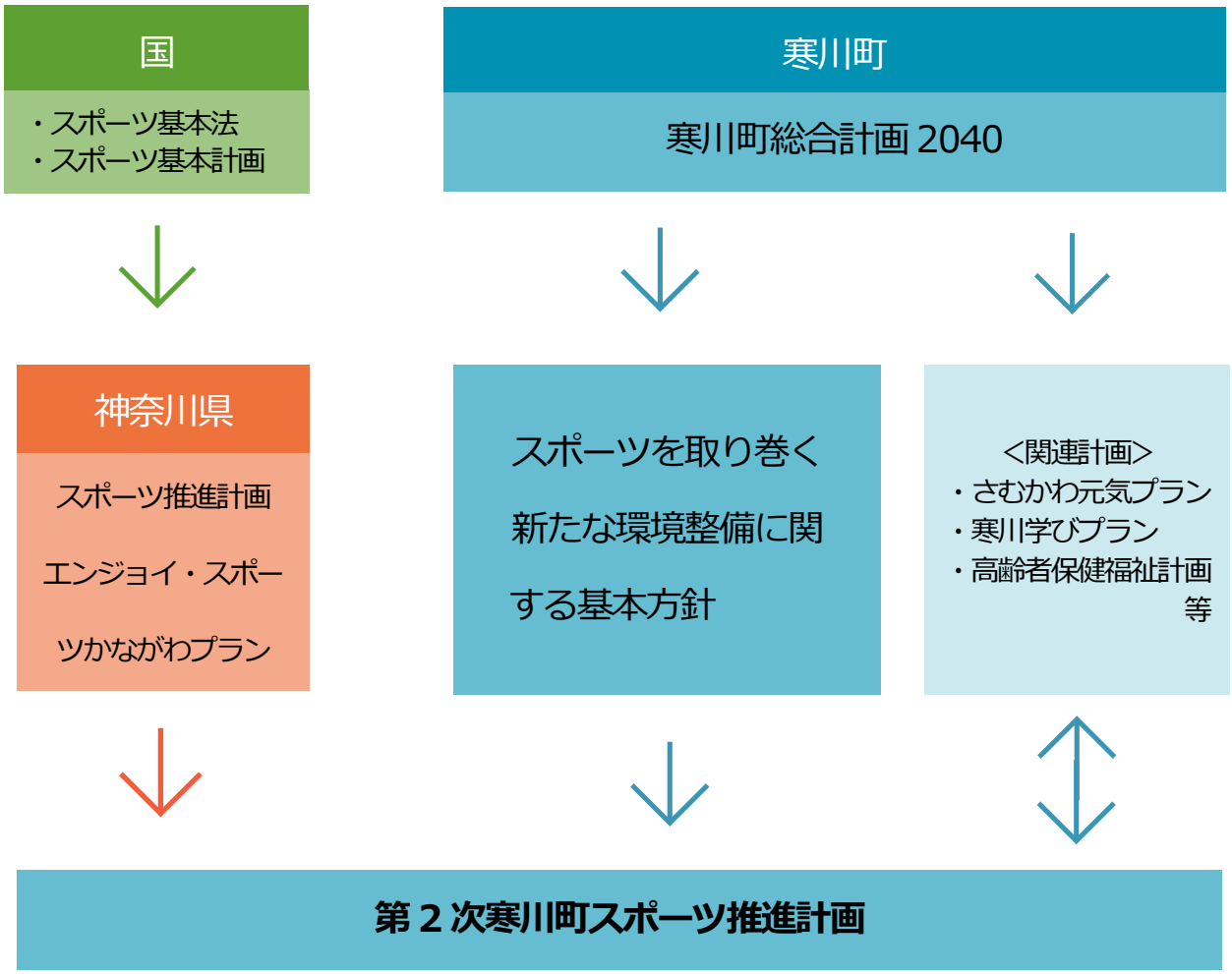
現在、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の影響で、日本だけでなく、世界中の人々が不安な毎日を過ごし、多くのストレスを抱え、健康を維持できない状況にありますが、そういったストレスを解消し、健康を維持するためには、「スポーツの力」の果たす役割は大きいといえます。

「寒川町総合計画 2040 基本構想」におけるまちの将来像「つながる力で新化するまち」の実現に向け、「スポーツの力」の果たす役割を踏まえ、これからの町民のスポーツ活動と健康維持を計画的に推進するため、「第２次寒川町スポーツ推進計画」を策定します。

2　計画の位置付け

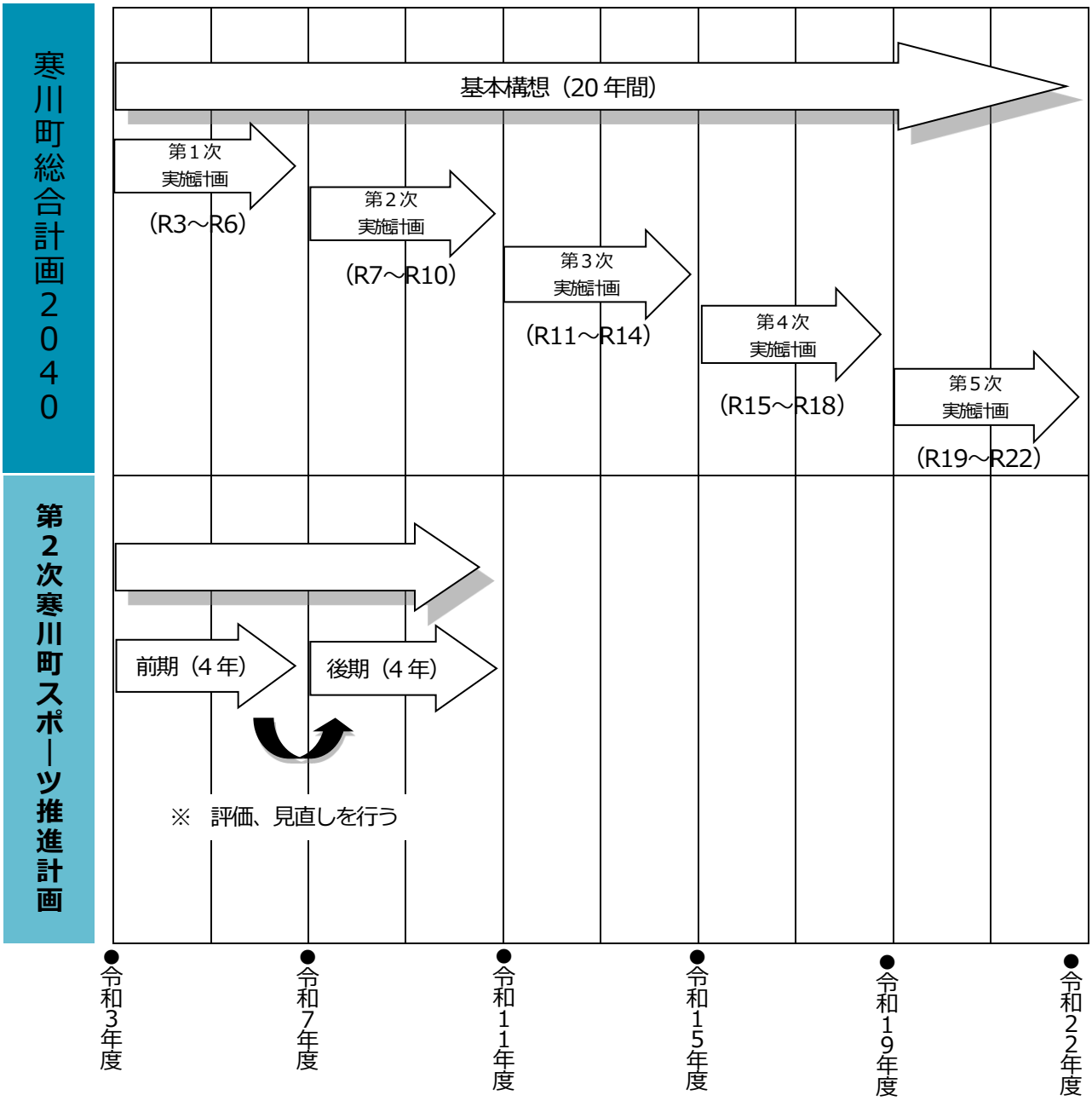
本計画は、国の「スポーツ基本計画」及び神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ！かながわプラン」を踏まえ、策定しました。

また、「寒川町総合計画 2040」及び「スポーツを取り巻く新たな環境整備基本方針」を補完し、スポーツ・レクリエーション活動を推進するための具体的な取り組みを示した計画です。



3　計画の期間

本計画の期間は、令和３年度から令和 10 年度までの８年間とし、前期と後期に分け、中間年に評価、見直しを行いながら計画を進めていきます。



第２章　町のスポーツを取り巻く状況

１　アンケート調査からみるスポーツに関する状況

令和２年４月27日から５月27日の期間で「スポーツに関するアンケート調査」を実施しました。

アンケート調査は、16才以上の町民1,000人を対象とし、384人（男性222人、女性162人）から回答が得られました。

前計画の平成23年度に実施したアンケート調査結果と比較するなどし、状況を考察しました。

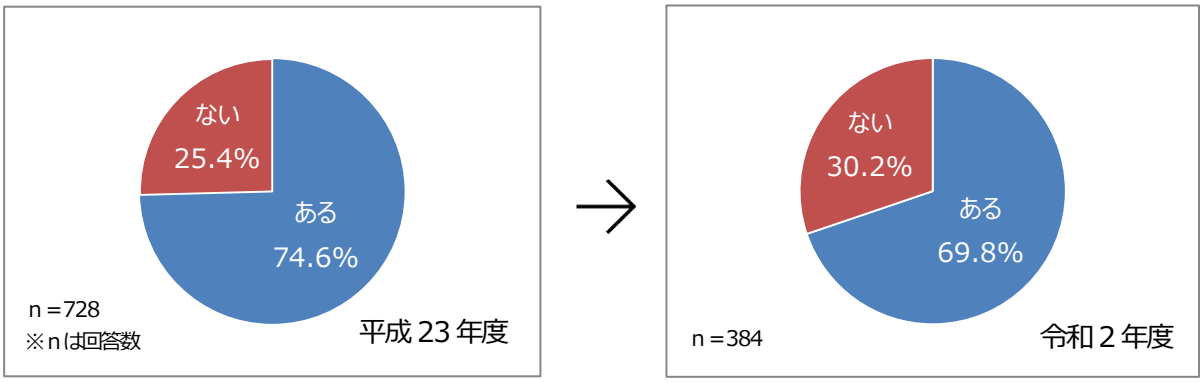
※前回のアンケート内容と一部異なる部分もあるため、比較できない項目もあります。

①スポーツの実施状況について

（1）運動・スポーツを行った日がある人

１年間で１日あたり30分以上の運動やスポーツを行った日があると回答した人の割合は、69.8%で、平成23年度の74.6%と比べて、4.8%減少しました。

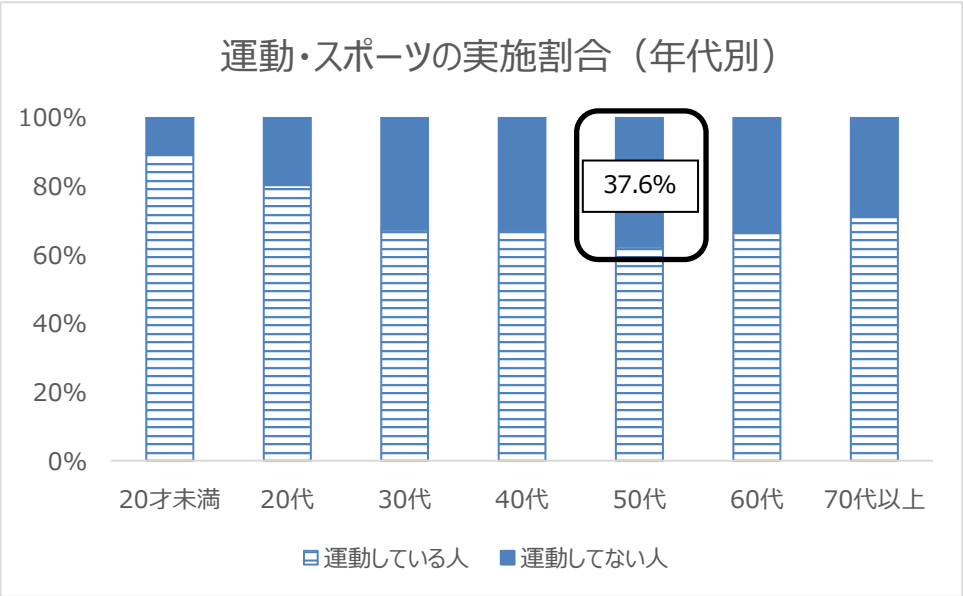
前計画で示した「スポーツを楽しむ人85%」の指標は、達成できませんでした。



<1年間で１日あたり30分以上の運動やスポーツを行った日があると回答した人の割合>

(2) 運動・スポーツを行った日がない人

運動・スポーツの実施割合を年代別で比較すると、50 代の年代の割合が高くなっています。

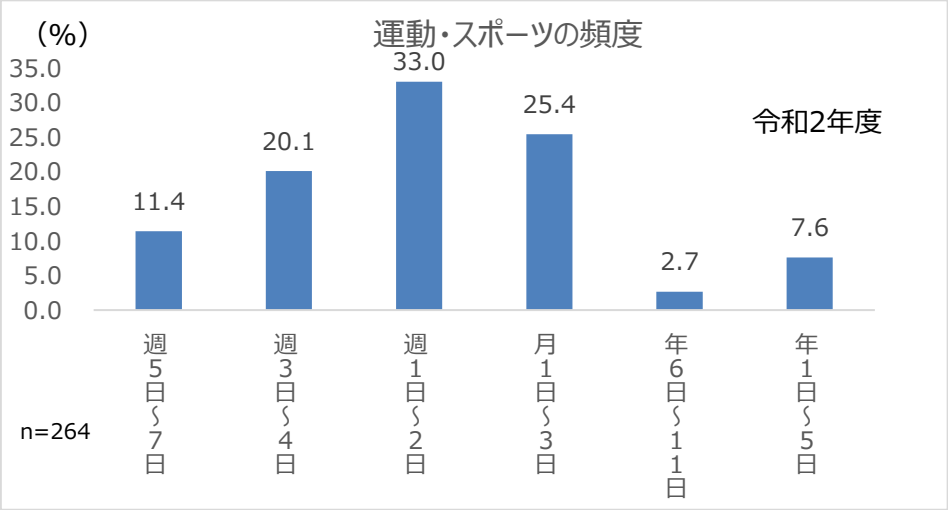


(3) 運動・スポーツの実施頻度

運動やスポーツを行った日がある人における、スポーツの実施頻度は、「週 1 日～2 日」が 33.0%と最も多く、平成 23 年度と比較すると 8.7%増加しました。（平成 23 年度：24.3%）

また、運動・スポーツを行った日がある人のうち「週に 1 日以上の運動・スポーツを行った人」の割合は、64.5%となり、平成 23 年度の 45.7%と比較すると、17.8%上昇し、前計画（後期）で示した指標「60%」を上回り、目標を達成できました。

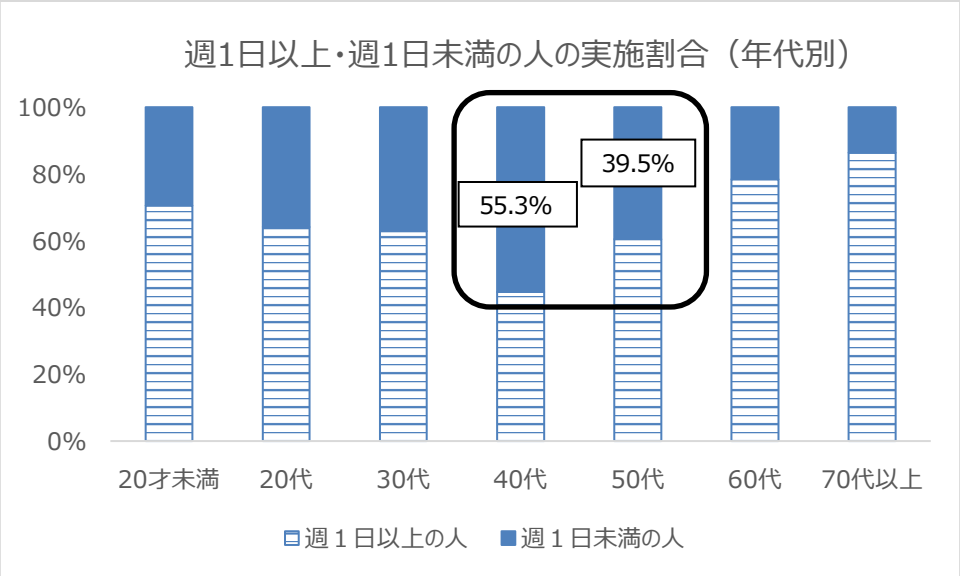
しかしながら、1 年間で 1 日あたり 30 分以上の運動・スポーツを行った日がない人の割合が増えていることにも留意しておく必要があります。



<1 年間で 1 日あたり 30 分以上の運動やスポーツを行った日があると回答した人の内訳>

（4）運動やスポーツを行った日がある人のうち週１日未満の人

運動やスポーツを行った日がある人のうち、週１日未満の人の年齢別割合をみると、40 代の年代の割合が高くなっており、運動・スポーツをしていない人と合わせ、40 代、50 代の運動不足が浮き彫りになりました。



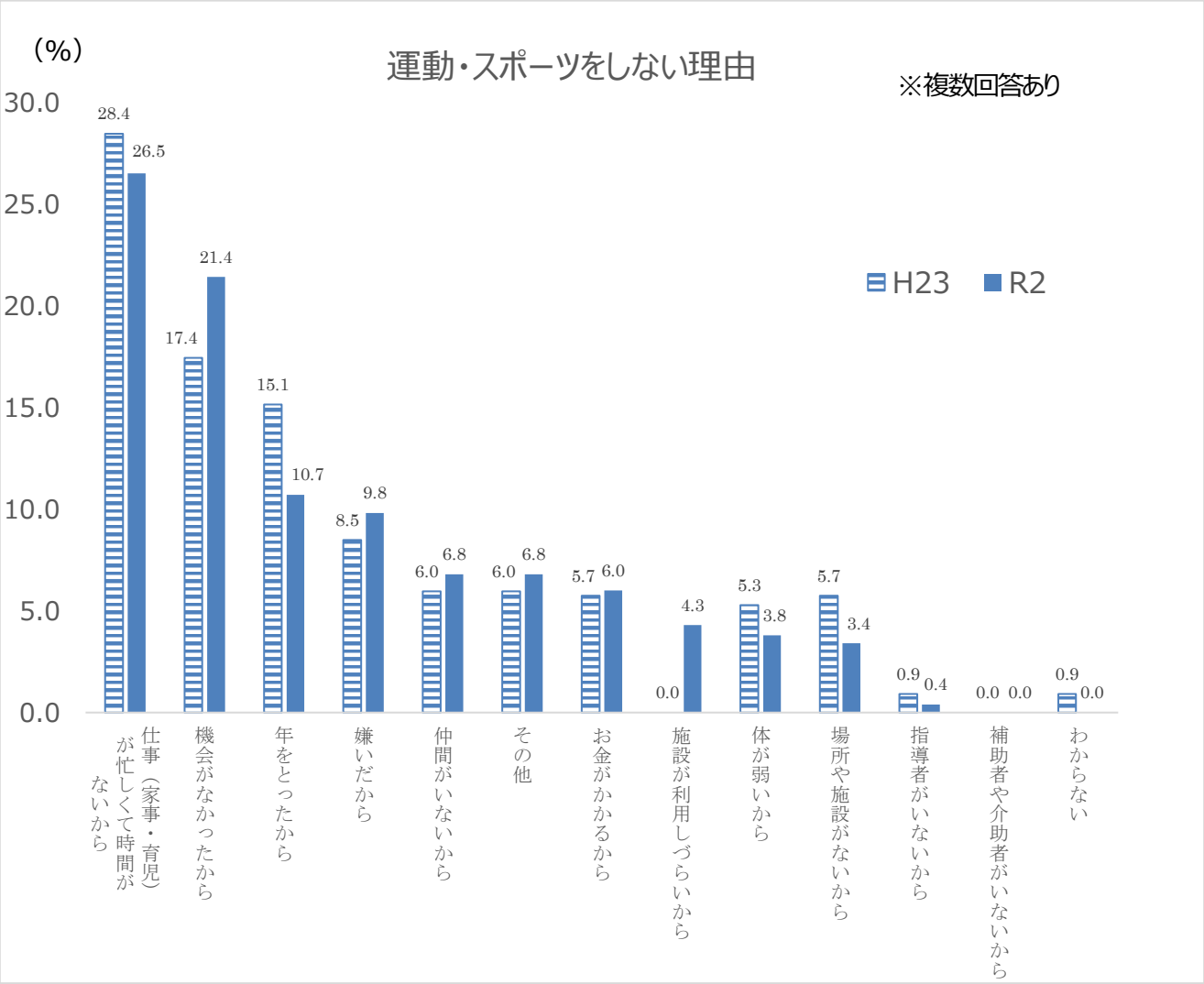
(5) 運動・スポーツをしない理由

前回のアンケート調査から引き続き、「仕事が（家事・育児を含む）忙しく時間がない」という回答が最も多く、２６．５%となりました。平成２３年度と比較すると、減少傾向にあるものの、いまだ仕事（家事・育児含む）で忙しく、運動・スポーツができない人が多い傾向にあります。また、「機会がなかったから」という回答も多く、２１．４%となりました。平成２３年度と比較すると、増加傾向にあります。

通勤時間や休憩時間、仕事の前後の時間を利用するなど、運動・スポーツに手軽に取り組める環境づくりが必要です。

また、スポーツを行うきっかけづくりとして、誰もが親しみやすいスポーツイベントや教室をより充実させる必要があります。

また、「年をとったから」という理由が、10.7%となり、平成 23 年度と比較すると、減少傾向にあり、高齢者にも日常的な運動習慣が定着してきていると推測されます。



(6) 町内スポーツイベントの参加について

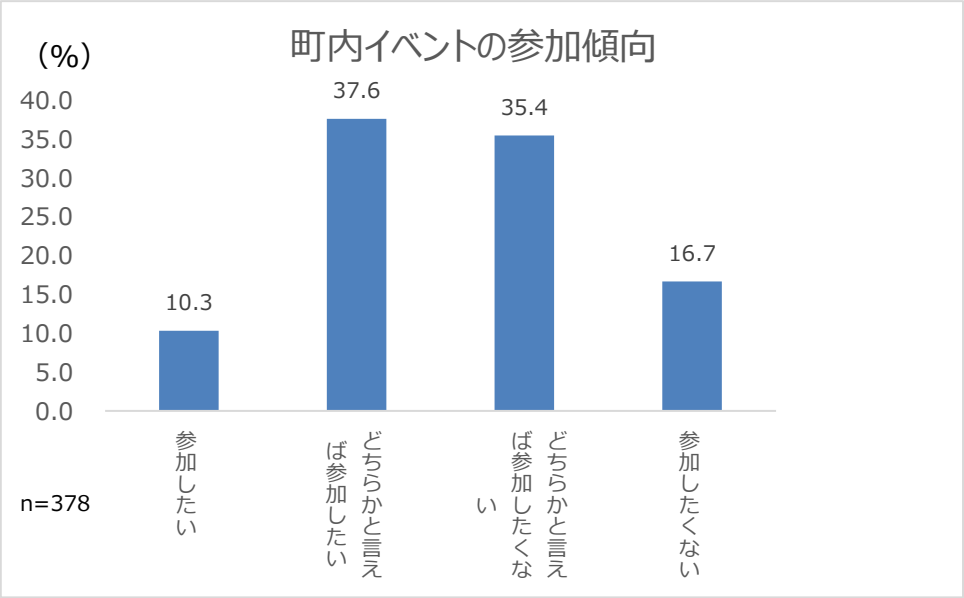
町が主催するスポーツイベントや教室の参加希望の有無については、「どちらかと言えば参加したい」という回答が最も多く、37.6%となりました。

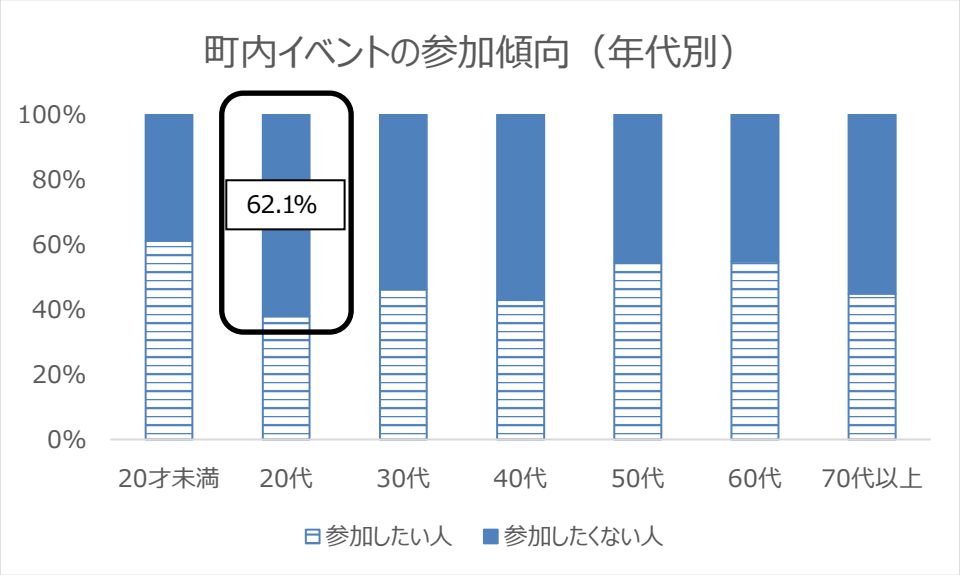
また、「どちらかと言えば参加したくない」「参加したくない」と回答した人が 52.1%となり、半数以上が、イベント参加に消極的だとわかりました。

参加したくないと回答した人を年齢別で比較すると、20 代の割合が高く、特にこの年代の方に人気のあるスポーツイベントや教室の開催が必要と考えます。

しかしながら、参加したくないと答えた 52.1%のうち 85%が運動・スポーツを行った日があると回答していました。

町の主催するイベント参加に消極的な人と運動習慣に関連性がないことがわかりました。

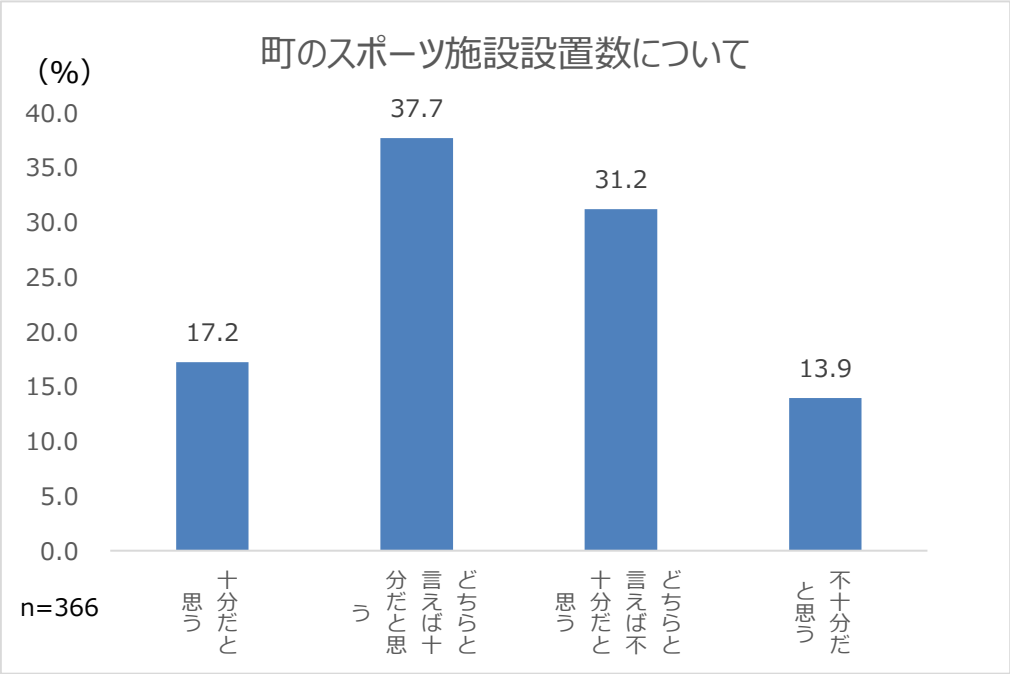


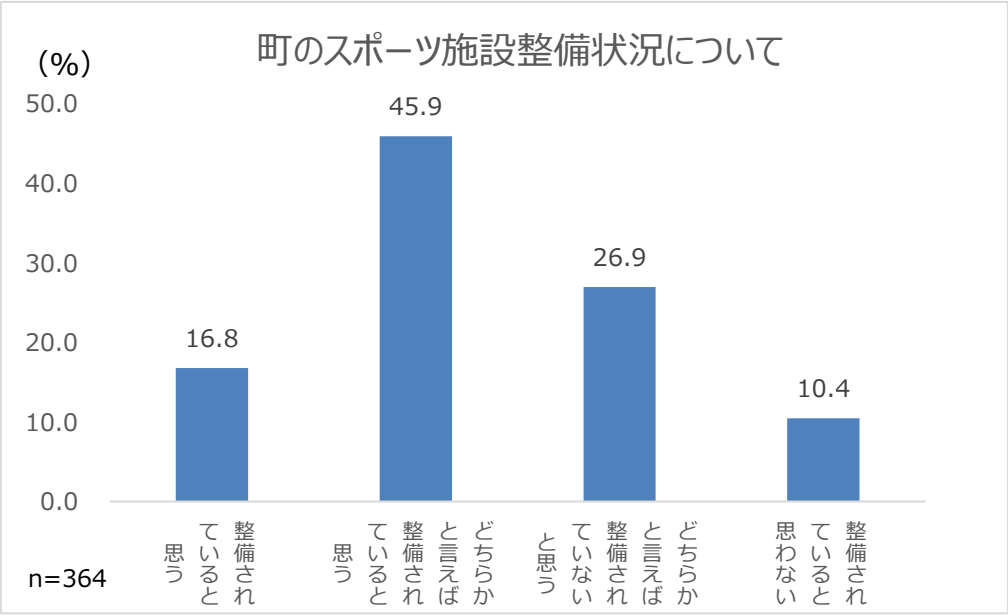


②スポーツ施設の状況について

（１）スポーツ施設の設置数及び整備について

スポーツ施設の設置数や整備については、十分あるいは整備されていると回答している人の割合が高いが、不十分、整備されていないと回答した中には、利用方法の簡略化や利用時間帯の拡大などを望む声が多いことから、より利用しやすい環境を整える必要があります。





2　活動団体の状況

本町のスポーツ活動を日常的に推進している団体には、「寒川町体育協会」、「寒川町スポーツ少年団」及び「寒川町レクリエーション協会」があります。

寒川町体育協会は、18 の競技種目別の協会と寒川町スポーツ少年団で組織され、野球など比較的競技性の高い活動を行っていますが、会員数は全体的に減少傾向にあり、種目別にみると、サッカーやバスケットボール、野球といった球技スポーツが、著しく減少しています。

一方で、生涯スポーツとして楽しめる卓球やテニスにおいては、増加傾向にあります。

寒川町スポーツ少年団は、柔道などスポーツに親しみながら協調する気持ちや創造性を養うことを目的に活動を行っています。

寒川町レクリエーション協会は、民踊などのレクリエーションを中心とした 6 つの種目の団体で組織されていますが、近年は、会員の高齢化の影響により会員拡充が難しく、脱退となる種目も増え、会員数は、減少傾向にあります。

会員数の減少は、全国的にみても減少傾向にあります。（全国レクリエーション協会事業報告書参照）

【寒川町体育協会】

団　体　名	構　成　員（人）		
	平成 23 年度	令和２年度	増　減
サッカー協会	470	374	▲96
バスケットボール協会（スポ少含む）	680	390	▲290
ソフトボール協会	155	128	▲27
卓球協会	165	203	38
バレーボール協会	413	815	402
ソフトテニス協会	259	170	▲89
柔道協会（スポ少含む）	56	52	▲4
ゴルフ協会	122	93	29
剣道協会	160	184	24
野球協会（スポ少含む）	1,321	1,044	▲277
陸上競技協会	132	167	35
ボウリング協会	50	66	16
テニス協会	853	869	16
空手道協会	54	48	▲6
パワーリフティング協会	82	80	▲2
バドミントン協会	40	40	－
弓道協会	44	39	▲5

合気道協会	88	8	▲80
スポーツ少年団	155	168	13

※バレーボール協会は、平成 23 年度と構成員の集計方法が異なります。

【寒川町スポーツ少年団】

種　目	団　体　数			構　成　員（人）		
	平成２３年度	令和２年度	増　減	平成 23 年度	令和２年度	増　減
柔道	1	1	－	10	14	4
野球	1	4	3	18	49	31
バスケットボール	5	4	▲1	127	105	▲22

【寒川町レクリエーション協会】

団　体　名	構　成　員（人）		
	平成 23 年度	令和２年度	増減
民踊の部	30	20	▲10
フォークダンスの部	39	27	▲8
バドミントンの部	40	19	▲21
ゲートボールの部	40	0	▲40
卓球の部	33	0	▲33
ペタンクの部	37	25	▲12
ターゲット・バード・ゴルフの部	37	44	7
グラウンドゴルフの部	53	40	▲13

※卓球の部とゲートボールの部は脱退となりました。
（卓球の部：平成 28 年度、ゲートボールの部：平成 31 年度）

3　スポーツ施設の利用状況

本町におけるスポーツ活動の場としては、野外体育施設、都市公園施設、学校体育施設等といったスポーツ施設があります。

屋外スポーツ施設は、天候の状況に影響を受け、毎年利用件数に増減がありますが、令和元年度においては、台風 19 号や新型コロナウイルス感染症の影響による、施設の閉鎖といった理由により、減少しているものと考えられます。

平成 25 年度より利用を休止していた町営プールについては、再整備が完了し、令和 3 年度の夏の再開に向けた準備を進めています。

さむかわ庭球場については、老朽化の進行とともに、利用者も減少傾向にあるものの、一定のニーズがあることから、学校給食センターの整備工事と合わせた整備が効率的であると捉え、再整備に向けた準備を進めています。

また、若い世代に人気のあるホイールスポーツが楽しめる「パンプトラックさむかわ」の整備や BMX フラットランドを体験できる環境を整備しました。

【野外体育施設】

施　設　名	詳　細	利　用　状　況		
		平成 22 年度	令和元年度	増減
倉見スポーツ公園	ソフトボール・少年野球	906 件	802 件	▲104 件
田端スポーツ公園	第 1 野球場	496 件	312 件	▲184 件
	第 2 野球場	630 件	295 件	▲335 件
	多目的運動場	373 件	359 件	▲14 件
	多目的広場	87 件	131 件	44 件
寒川町営プール	25m、50mプール 幼児用プール スライダープール	23,569 人	–	–
さむかわ庭球場	ハードコート 5 面	2,709 件	2,000 件	▲709 件
パンプトラックさむかわ	BMX、スケートボード等	–	3,867 人	–

※パンプトラックさむかわは平成 30 年 10 月に開場しました。

※田端スポーツ公園については、平成 22 年度と集計方法が異なります。

【都市公園施設】

施　設　名	詳　細	利　用　状　況		
		平成 22 年度	令和元年度	増減
川とのふれあい公園	野球場	936 件	728 件	▲208 件
	サッカー場	983 件	842 件	▲141 件
寒川総合体育館	メインアリーナ サブアリーナ	83,376 人	127,112 人	43,736 人
	武道場	38,276 人	33,626 人	▲4,650 人
	弓道場	5,078 人	4,727 人	▲351 人
	多目的室	33,647 人	23,721 人	9,926 人
	ランニングコース	156 人	22 人	▲134 人
	トレーニングルーム	20,128 人	34,551 人	14,423 人
	スポーツサウナ	14,787 人	11,715 人	▲3,072 人

【フラットパーク】

施　設　名	詳　細	利　用　状　況		
		平成 22 年度	令和元年度	増減
フラットパーク	BMX フラットランド	－	2,857 人	－

※フラットパークは、平成 31 年３月から令和２年４月まで開場しました。
　令和２年５月以降は、民間施設に事業を委託しています。

【学校体育施設】

施　設　名	詳　細	利　用　状　況		
		平成 22 年度	令和元年度	増減
体育館	町立小学校５校 町立中学校３校	4,997 件	5,231 件	234 件
屋外運動場 (※中学校は夜間照明施設を含む)	町立小学校５校	1,430 件	2,242 件	812 件
	町立小学校２校 (寒川中学校、旭が丘中学校)	432 件	302 件	▲128件

※南小学校ふれあいホールの人数は除いています。

【青少年広場】

施　設　名	詳　細	利　用　状　況		
		平成 22 年度	令和元年度	増減
青少年広場	グラウンド	14,136 人	16,115 人	1,979 人
	多目的広場	11,293 人	11,749 人	456 人

【健康管理センター】

施　設　名	詳　細	利　用　状　況		
		平成 24 年度	令和元年度	増減
健康管理センター	ゲートボール場	1,927 人	569 人	▲1,358 人

※平成２２年度のデータがないため、直近の平成２４年度データと比較しました。

【旭ファイバーグラス株式会社】

施　設　名	詳　細	利　用　状　況		
		平成 24 年度	令和元年度	増減
旭ファイバーグラス株式会社	テニスコート	263 件	210 件	▲53 件

※平成２４年度から運用を開始しました。

４　中学校運動部活動の現状

運動部活動において、スポーツの楽しさや魅力を知ることは、成人後におけるスポーツの実施率に大きく関係があると考えられますが、本町については、技術指導ができる顧問教員が少なく、専門性を重視した部活動が充分に実施できていない状況にあり、運動部活動への加入率は減少傾向にあります。

また、行いたい種目の運動部がなく、望む活動が行えない生徒が多いのも現状です。

【中学校全体（3 校）】

種　目	平成 22 年度			令和元年度			増　減		
	人数	顧問数		人数	顧問数		人数	顧問数	
		内部	外部		内部	外部		内部	外部
バレーボール	34	2	0	40	3	1	6	1	1
バスケットボール	139	6	1	136	11	1	▲3	5	－
ソフトテニス	128	8	0	140	7	1	12	▲1	1
卓球	113	3	2	91	5	0	▲22	2	▲2
野球	80	4	2	41	6	2	▲39	2	－
ソフトボール	13	2	0	9	2	2	▲4	－	2
サッカー	94	3	1	79	7	0	▲15	4	▲1
バドミントン	25	2	0	51	2	0	26	－	－
剣道	60	3	1	56	5	1	▲4	2	－
陸上競技	87	5	0	111	5	0	24	－	－
運動部計	**773**	**38**	**7**	**754**	**49**	**8**	**▲19**	**11**	**1**
文化部計	358			240			▲118		
運動部加入率（%）	**60.4**			**58.5**			**▲1.8**		
在籍生徒数	1,279			1,288			9		
部活加入数	1,131			994			▲137		
部活加入率（%）	**88.4**			**77.1**			**▲11.3**		

【寒川中学校】

種　目	平成22年度			令和元年度			増　減		
	人数	顧問数		人数	顧問数		人数	顧問数	
		内部	外部		内部	外部		内部	外部
バレーボール	6	1	0				▲6	▲1	－
バスケットボール	27	2	0	29	3	0	2	1	－
ソフトテニス									
卓球									
野球	23	1	1	4	2	1	▲19	1	－
ソフトボール	13	2	0	9	2	2	▲4	－	2
サッカー	32	1	0	15	3	0	▲17	2	－
バドミントン	25	2	0	51	2	0	26	－	－
剣道	16	1	0	10	1	0	▲6	－	－
陸上競技	7	1	0	29	2	0	22	1	－
運動部計	**149**	**11**	**1**	**147**	**15**	**3**	**▲2**	**4**	**2**
文化部計	111			88			▲23		
運動部加入率（%）	**53.4**			**56.5**			**3.1**		
在籍生徒数	279			260			▲19		
部活加入数	260			235			▲25		
部活加入率（%）	**93.2**			**90.3**			**▲2.9**		

【旭が丘中学校】

種　目	平成22年度			令和元年度			増　減		
	人数	顧問数		人数	顧問数		人数	顧問数	
		内部	外部		内部	外部		内部	外部
バレーボール				28	1	0	28	1	－
バスケットボール	59	2	1	50	5	0	▲9	3	▲1
ソフトテニス	88	4	0	86	4	0	▲2	－	－
卓球	55	2	1	57	3	0	2	1	▲1
野球	30	2	0	22	2	0	▲8	－	－
ソフトボール									
サッカー	30	1	1	42	2	0	12	1	▲1
バドミントン									
剣道	18	1	1	34	2	0	16	1	▲1
陸上競技	35	2	0	52	2	0	17	－	－
運動部計	**315**	**14**	**4**	**371**	**21**	**0**	**▲54**	**7**	**▲4**
文化部計	158			53			▲105		
運動部加入率（%）	**58.1**			**62.1**			**4.0**		
在籍生徒数	542			597			55		
部活加入数	473			424			▲49		
部活加入率（%）	**87.2**			**71.0**			**▲16.2**		

【寒川東中学校】

種　目	平成22年度			令和元年度			増　減		
	人数	顧問数		人数	顧問数		人数	顧問数	
		内部	外部		内部	外部		内部	外部
バレーボール	28	1	0	12	2	1	▲16	1	1
バスケットボール	53	2	0	57	3	1	4	1	1
ソフトテニス	40	4	0	54	3	1	14	▲1	1
卓球	58	1	1	34	2	0	▲24	1	▲1
野球	27	1	1	15	2	1	▲12	1	－
ソフトボール									
サッカー	32	1	0	22	2	0	▲10	1	－
バドミントン									
剣道	26	1	0	12	2	1	▲14	1	1
陸上競技	45	2	0	30	1	0	▲15	▲1	－
運動部計	**309**	**13**	**2**	**236**	**17**	**5**	**▲73**	**4**	**3**
文化部計	89			99			10		
運動部加入率（%）	**67.5**			**54.7**			**▲12.8**		
在籍生徒数	458			431			▲27		
部活加入数	398			335			▲63		
部活加入率（%）	**86.9**			**77.7**			**▲9.2**		

第３章　前計画の評価における今後の課題

１　前計画の３つの目標

Ⅰ　支援体制を充実します

子育てや介護などで、外出することが困難で、運動・スポーツができない人が多く見受けられます。

そのような人たちが、自分の都合に合わせて、体を動かす習慣を身に付けられる事業展開を考えるとともに、スポーツに関する情報発信を工夫し、１人でも多くのみなさんがスポーツに親しめるような支援体制を強化します。

Ⅱ　スポーツに親しむきっかけとなる機会を提供します

町が主催するスポーツイベントや教室については、親子で参加できるものや世代間の交流を創出するもの、時代にあったものなど、より楽しんでいただけるような工夫をするとともに、開催時期や時間帯等も検討し、スポーツをしない人、スポーツをしたくてもできない人などへ、スポーツに親しむ機会の提供を行っていきます。

また、湘南ベルマーレをはじめとしたプロスポーツ団体などの協力を得ながら、子どもたちにスポーツの楽しさを伝えていきます。

Ⅲ　活動の場である施設を充実します

スポーツ施設については、利用者、利用状況、老朽化の度合い等、様々な面を総合的に判断し、利用方法の改善や老朽化した施設の改修に向けた検討を行い、利用者の利便性を高めるなど、スポーツ活動の場となる施設の充実を図ります。

2　評価と課題

Ⅰ　支援体制を充実します

①スポーツ推進委員によるニュースポーツの普及や 3033 運動の普及

運動習慣を定着させるため、健康の維持と日常生活を楽しむことを目的としたニュースポーツは、「さむかわスポーツデイ」や「チャレンジデー」などのイベントで、体験コーナーを設けるなどの普及活動を行い、主に親子連れや高齢者など多くの人が参加しました。

本町のスポーツ推進委員は、ニュースポーツの普及のために、他市町村と合同研修会を開催したり、県や全国の研修会に参加するなどし、指導力の向上に努め、毎年新たなニュースポーツを取り入れながら、子どもや高齢者向けの「ニュースポーツ講習会」を開催したことで、用具の貸し出しの依頼やニュースポーツ大会が企画されるなど、自主的な活動につなげることができました。

また、神奈川県が推奨している 3033 運動について、県の事業を活用し、普及を行いました。

町役場庁舎と健康管理センターの階段に、啓発ステッカーを貼り、町民へのＰＲ及び職員が実践するよう啓発を行ったり、町民が多く集まるイベントにおいて、ブースを設け、普及に努めました。

他にも、スポーツ推進委員を対象とした、県の講師による講習会を実施し、受講したスポーツ推進委員がこの活動を普及する立場となる機会を設けました。

今回のアンケート結果によると、「3033 運動を知らない」と回答した人が 73.0%となり、平成 26 年に実施したアンケート結果（88.0%）と比べると、15%減少しているため、認知度は向上したものの、実際に「実践している」と回答した人は 14.7%となり、知っていても実践している率が低いため、個人が主体的に運動を取り組むよう引き続き、普及活動を行っていく必要があります。

②東京オリンピック 2020 競技大会への出場を見据えた支援

東京 2020 オリンピック競技大会の BMX レーシングにおいて、かねてから期待されていた、本町出身の選手が代表に選出されました。

新型コロナウイルスの影響により、十分な練習環境が整っていない状況であったことから、スイスの強化合宿に参加するまでの間でありましたが、筋力トレーニングができる場所の提供や寒川建設業協会にご協力いただき、仮設のスタート練習場を建設し、一番苦手とするスタートを集中的に練習できる環境を整えました。

Ⅱ　スポーツに親しむきっかけとなる機会を提供します

①スポーツイベント・教室の開催

スポーツに親しむきっかけづくりの場の提供とスポーツ参加者の裾野を広げることを目的にスポーツイベント及び教室を開催しました。

スポーツイベントについては、年齢、性別を問わず、誰もが気軽に参加できる「チャレンジデー」を開催し、スポーツによる自治体間の競い合いを通じて、町全体が一体となったスポーツ推進が行えました。1 回目の参加率は、31.0%でしたが、5 回目の参加率は 63.4%と過半数を超え、ある一定の効果を得られました。

本町の春の風物詩と言われる「観桜駅伝競走大会」は、昭和 26 年から続く、歴史ある駅伝大会で、毎年約 80 チーム以上のエントリーがあり、参加者は年々増加傾向にあります。

しかしながら、昨今の交通事情から安全に公道を走行できるコース設定が難しく、警察との交通協議においても、県道や信号機のあるコース設定は、周辺交通の円滑化、住民生活への影響、事故防止の観点から道路使用が認められない状況になっています。

また、安全確保のため、ガードマン配置等の費用増加の問題もあることから、大会を安全かつ低予算で開催できるようなコース設定が必要な状況です。

毎年 10 月の体育の日に開催している「さむかわスポーツデイ」では、元オリンピック選手や監督を招いたスポーツ教室を開催し、トップアスリートによる指導を受けた参加者は、貴重な体験ができたことに大変満足していました。

また、「チャレンジデー」や「さむかわスポーツデイ」では、他自治体の広報誌への掲載やイベントチケット無料配布などを行い、広域連携推進を図りました。

他にも、「パンプトラックさむかわ」や「フラットパーク」において、初心者を対象とした BMX 講習会を新たに実施しました。

その結果、前計画時のスポーツ教室（テニス教室や弓道教室など）の参加人数を増加させることができました。

しかしながら、今回のアンケート結果では、町が主催するスポーツイベントに関して、「どちらかと言えば参加したくない」「参加したくない」と回答した人が 52.1%となり、半数以上が、イベント参加に消極的であることがわかり、なかでも、20 代の割合が高い傾向にありました。

町主催イベントに参加したくなるような魅力あるイベントを検討すると同時に、町内外に周知させる工夫が必要です。

②高齢者・障がい者スポーツの機会提供

高齢者に対するスポーツの機会提供として、年に複数回、シニアクラブ連合会を対象に「ニュースポーツ講習会」を実施し、高齢者の健康への意識付けと運動の習慣化を図りました。

アンケート結果によると、週１日以上運動やスポーツを行っていると回答した割合は、44.3%（全年代の平均値）となりました。

年代別で比較すると、70 代以上が 58.1%、60 代が 49.4%となり、いずれの年代も、平均値を上回っており、高齢者の運動習慣が定着化していると考えられます。

しかしながら、運動を行った日がない人の割合 30.2%（全年代の平均値）に対し、70 代以上が 29.0%、60 代が 33.8%になっていることから、依然として運動を行っていない人も多いことから、引き続き、シニアクラブ連合会と連携するなど、運動していない人が参加してみたくなるような取り組みを検討する必要があります。

障がい者に対するスポーツの機会提供としては、「さむかわスポーツデイ」において、県のパラリンピック支援事業を活用し、「ボッチャ」や「ブラインドサッカー」等のパラリンピック競技の体験会を実施し、障がい者スポーツに関する関心を高めることができました。

③スポーツ団体との協働

本町の体育協会、レクリエーション協会、総合型地域スポーツクラブの協力を得て、スポーツイベントを開催し、競技力の向上や地域での交流が深まるようスポーツ活動の推進を図りました。

「チャレンジデー」「さむかわスポーツデイ」「観桜駅伝競走大会」の運営形態を実行委員会形式で行い、上記団体以外にも、民間スポーツ団体やスポーツ推進委員協議会などで委員を構成し、行政単独では実現できない相乗効果を生みだし、柔軟な事業運営を行いました。

「さむかわスポーツデイ」では、サッカーのプロスポーツ団体である湘南ベルマーレと連携したことで、スポーツから遠ざかっている人も含め、ホームタウンチームを身近なものとして触れられる機会をつくることができました。

また、「見るスポーツ」という観点から、プロのサッカーチームやバスケットボールチームの公式戦の一部を本町のホームゲームとして位置付け、町民に対して、プロの試合を観戦する機会を提供しました。

他にも、ストリートスポーツの世界大会である ARK LEAGUE(アークリーグ)を開催し、「世界のトップアスリートの技」を間近で見る機会を提供しました。

今後もスポーツ団体との連携を図り、スポーツ活動の推進を継続する必要があります。

Ⅲ　活動の場である施設を充実します

①スポーツ施設の整備・改修

平成 25 年度より利用を休止していた町営プールについては、再整備が完了し、令和３年度の夏の再開に向けた準備を進めています。

さむかわ庭球場については、老朽化が激しいことから、学校給食センターの整備工事と合わせた整備が効率的であると捉え、再整備に向けた準備を進めています。

倉見スポーツ公園については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、利用者に安全に利用してもらうため、手洗い場の改修を行いました。

川とのふれあい公園のサッカー場においては、グラウンドの水はけが悪く、雨が降ると水たまりができてしまい、利用しにくい状況となっており、関係機関と協議する必要があります。

また、東京 2020 オリンピック競技大会の BMX レーシングにおいて、日本代表となった本町に居住する BMX ライダーが、世界大会で活躍するなど、ホイールスポーツに対する機運が徐々に上がっている中、平成 30 年 10 月に BMX やスケートボードが楽しめるパンプトラックさむかわを、平成 31 年３月から令和２年４月まで BMX フラットランドが楽しめるフラットパークを開場して、町外の方にも多く利用されました。

このような取り組みを進めてきたことから、今回のアンケート結果では、施設整備について満足している人が過半数に達しました。

②スポーツ施設の運営管理

田端スポーツ公園については、平成 28 年度より指定管理者制度を導入し、使用料の支払い手続きを現地で行える等の利便性の向上と適切な維持管理が行われています。

パンプトラックさむかわの運営管理形態は、指定管理者制度を導入し、ＢＭＸ講習会や町民無料開放デー等のイベントを開催し、町民への利用促進に努めています。

第４章　基本理念・基本方針

１　基本理念

スポーツでつくる元気な「ひと」元気な「まち」の実現

「人生 100 年時代」と言われるように、「健康寿命の延伸」が重要なキーワードとなる中で、健康づくりと関係性の深いスポーツの普及・促進を図ることは「町民のこころ豊かな暮らし」の実現にとってなくてはならないものとなっています。

町民がいきいきと暮らすためには、個人の健康だけでなく、人とのつながりも含めた自己実現を図ることが重要となります。

そのため、スポーツは「みんなのもの」であり、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで、全ての町民がスポーツに関わっていくことが重要です。

一方で、東京 2020 オリンピック競技大会で新たに正式種目になったものや、近年若者の間で注目を浴びているスポーツなどを本町におけるスポーツの新たな魅力としながら、スポーツの力で、更なる交流の創出や経済・地域の活性化が求められています。

これらを踏まえ、豊かなスポーツライフを通して人と地域がつながり、元気な「ひと」の元気な「まち」の実現を目指します。

2　基本方針

基本理念を実現するために、４つの基本方針に沿って施策を展開します。

Ⅰ　スポーツを通じた健幸づくり

人は自分の好きなこと、やりがいのあることを行うことで幸せを感じます。

その土台作りとして、全ての町民が、それぞれの体力や年齢・技術・趣味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツを楽しみ、体力づくりや健康増進、社会参加を通じて、地域の人々との交流を深め、関係性を構築できるよう取り組みを進めます。

Ⅱ　子どものスポーツ活動の充実

子どもたちがスポーツの魅力や楽しさを実感できる機会を提供し、スポーツの楽しさや素晴らしさを伝え、生涯にわたってスポーツに取り組む活動を推進するとともに、仲間や指導者との交流を深め、スポーツを通じた豊かな心と他人に対する思いやりの心を育みます。

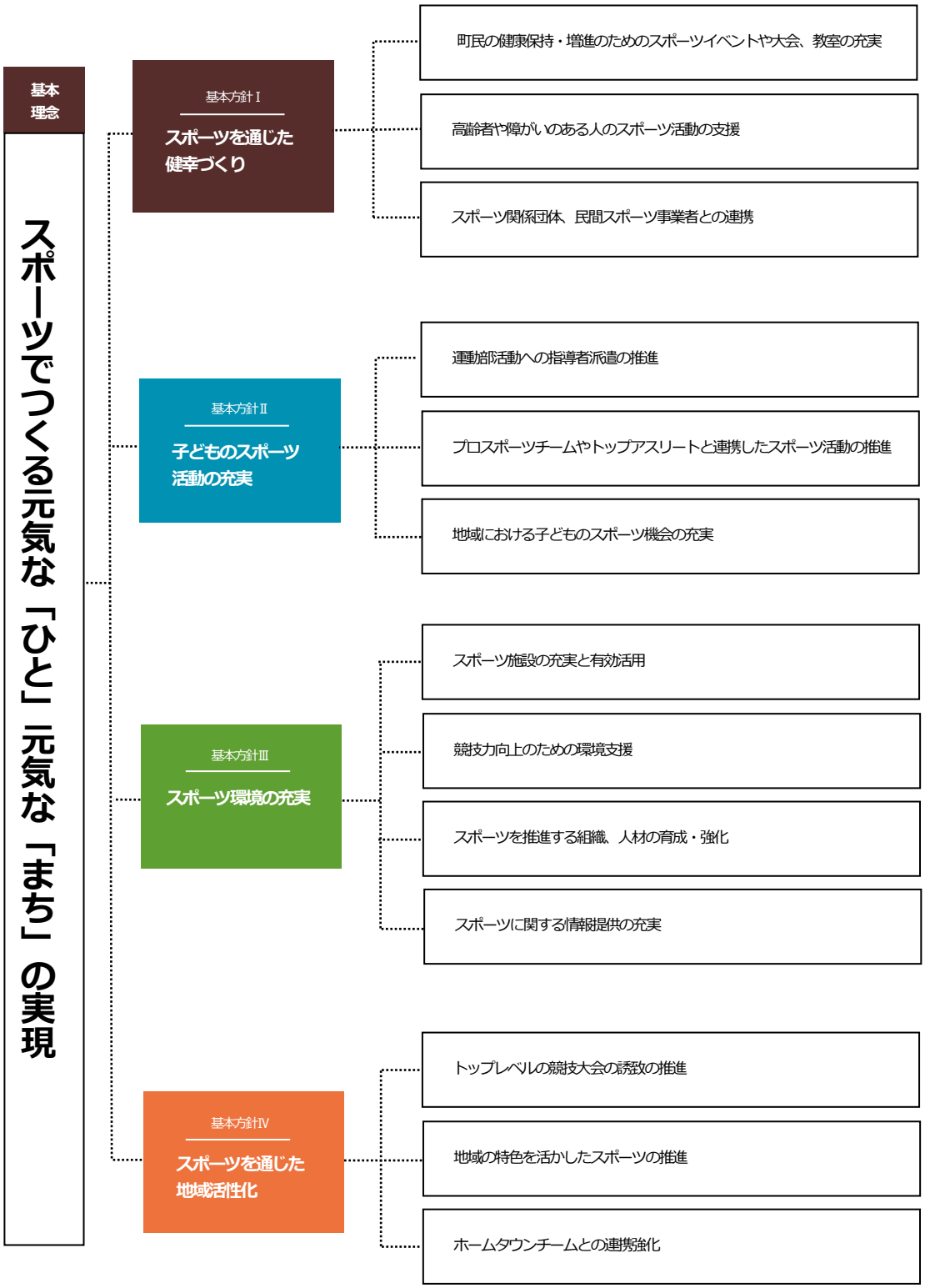
Ⅲ　スポーツ環境の充実

誰もが日常的にスポーツに親しむことができるまちづくりを進めるために、スポーツ施設の充実と積極的な活用を促進するとともに、スポーツに関わる多様な人材・組織の育成やスポーツに関する情報を容易に入手できるような情報提供に努め、より多くの町民が交流を深め、スポーツへの関わりを持てるよう取り組みを進めます。

Ⅳ　スポーツを通じた地域活性化

競技レベルの高い魅力ある大会の開催や本町の地域特性やスポーツ資源を活用した取り組みの推進、ホームタウンチームとの連携により、本町の魅力を広く発信するとともに、町外からの来訪を促進し、更なる交流の促進や経済・地域の活性化を図ります。

体系図


基本理念
スポーツでつくる元気な「ひと」元気な「まち」の実現
基本方針Ⅰ
スポーツを通じた健幸づくり
町民の健康保持・増進のためのスポーツイベントや大会、教室の充実
高齢者や障がいのある人のスポーツ活動の支援
スポーツ関係団体、民間スポーツ事業者との連携
基本方針Ⅱ
子どものスポーツ活動の充実
運動部活動への指導者派遣の推進
プロスポーツチームやトップアスリートと連携したスポーツ活動の推進
地域における子どものスポーツ機会の充実
基本方針Ⅲ
スポーツ環境の充実
スポーツ施設の充実と有効活用
競技力向上のための環境支援
スポーツを推進する組織、人材の育成・強化
スポーツに関する情報提供の充実
基本方針Ⅳ
スポーツを通じた地域活性化
トップレベルの競技大会の誘致の推進
地域の特色を活かしたスポーツの推進
ホームタウンチームとの連携強化

第５章　施策の展開と指標

１　施策の展開

Ⅰ　スポーツを通じた健幸づくり

①町民の健康保持・増進のためのスポーツイベントや大会、教室の充実

スポーツの習慣化、町民の健康づくりのためには、町民が様々なスポーツに出会う機会をつくり、楽しさを感じてもらうことが大切です。

スポーツに関心を持つきっかけがない町民やスポーツから遠ざかっている町民も含めて、誰もが親しみやすいスポーツイベントや教室の充実を図ります。

また、観光協会等と連携し、歴史巡りをするウォーキングイベントを実施するなど、特に運動不足が懸念される 40 代、50 代の参加を促進する取り組みを進めます。

高齢者に好評であったニュースポーツについては、引き続き、高齢者団体の自主的な活動が広がるよう魅力的な用具を充実させていきます。

また、スポーツ推進委員による定期的な普及活動や指定管理者の自主事業として、魅力あるスポーツ教室を定期的に開催することで、町民にスポーツを行うきっかけづくりを提供します。

3033 運動についても、引き続き、実践につながるような啓発に努めていきます。

日常的にスポーツをしていくには、自分なりの目標が必要であり、目標があるからこそ励みとなり継続しスポーツに打ち込むことができます。

競技力を向上する場、目標となる機会、多くの人たちとの交流の場となる大会開催し、スポーツの推進を図っていきます。

②高齢者や障がいのある人のスポーツ活動の支援

スポーツは継続することで心身の健康の維持・増進に寄与するとともに、仲間づくりや社会参加のきっかけにもなります。

高齢者が生き生きと暮らせるよう、身近な場所で、体力に応じたスポーツができるよう機会の提供を行います。

また、パラリンピックの開催を契機に障がい者スポーツに関する関心を高め、障がいのあるなしにかかわらず、一緒にスポーツを楽しむ機会を提供するなど、共生社会の実現に向けた障がい者スポーツの理解促進に関する取り組みを進めます。

③スポーツ関係団体、民間スポーツ事業者との連携

本町のスポーツの推進は、地域の様々な主体によって支えられています。

競技性の高いスポーツを推進する体育協会、誰もが気軽に楽しめる町民のスポーツ活動を推進するレクリエーション協会と連携しながら、競技力向上や地域での交流が深まるようスポーツ活動の推進を図っていきます。

また、湘南ベルマーレや横浜 DeNA ベイスターズ、民間スポーツ事業者の協力を得て、町民の試合観戦や競技体験の機会を得ることでスポーツの魅力や楽しさを感じられる機会をつくります。

Ⅱ　子どものスポーツ活動の充実

①中学校運動部活動への指導者派遣の推進

運動部活動においてスポーツの楽しさや魅力を知ることは，成人後におけるスポーツの実施率に大きく関係があると考えられます。

そこで、運動部活動において課題となっている専門的指導を行う地域指導者の派遣について、体育協会や総合型地域スポーツクラブと連携し進めることで、スポーツそのものの楽しさを実感しながらスポーツを続けていける子どもが多くなるよう支援します。

また、行いたい種目の運動部活動がなく、望む活動が行えない生徒を支援する取組の検討を進めます。

②プロスポーツチームやトップアスリートと連携したスポーツ活動の推進

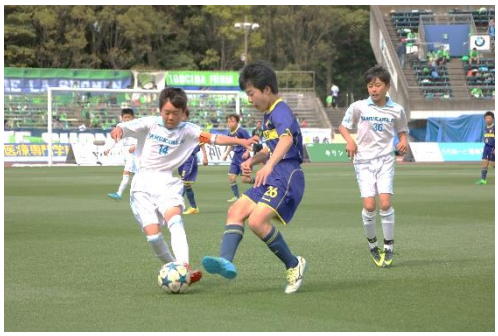
プロスポーツチームやトップアスリートと連携した学校や地域のスポーツ教室の開催等、子どもがプロスポーツチームやトップアスリートに触れ合う機会を図ることにより、多くの子どもにスポーツの魅力を感じてもらえる取組を進めます

また、実技指導を行うスポーツ教室などの交流を通して、青少年の健全育成や競技力の向上を図ります。

③地域における子どものスポーツ機会の充実

子どもが体を動かすことの楽しさに触れ、進んで体を動かすようにするためには、子どもたちの生活の場である地域におけるスポーツ活動を充実させていくことが重要です。

町の体育協会や総合型地域スポーツクラブと連携し、町内の小学生を対象としたスポーツ教室を定期的に開催することで、子どもたちにスポーツの楽しさを伝える場を提供します。



Ⅲ　スポーツ環境の充実

①スポーツ施設の充実と有効活用

施設の設備等の老朽化により、スポーツを楽しむ上で問題がある施設については、財源確保を図りつつ、利用者ニーズを踏まえながら、グラウンド・コートなどの質的向上やスポーツイベントに適した照明・音響設備の設置など、高質な環境整備を図ることで、スポーツを快適に楽しめる環境を整え、町の魅力の向上に努めます。

また、利用者の利便性を向上させ、日常的に施設に足を運んでもらえるよう、指定管理者制度の導入を進めるとともに、企業等が保有する民間スポーツ施設の活用、近隣市との広域的な連携による公共スポーツ施設の相互利用を推進することで、自宅や職場などから近い場所でスポーツができる環境づくりに取り組みます。

新たな施設を整備する場合には、町の魅力の向上を図るため、これまで町内外で活躍してきた選手・人材に協力いただきながら、交流人口の創出や移住・定住の促進にも繋がる魅力ある拠点施設となるよう、整備方針や運営体制について検討します。

②競技力向上のための環境支援

本町出身の選手が国際大会・全国大会で活躍することは、町民に大きな夢や感動を与え、スポーツに対する興味や関心が高まるだけでなく、町民にとっての誇りとなります。

全国大会等に出場する選手に対する補助金の交付や表彰を行うなど、競技力の向上に努めるとともに、選手強化に取り組む団体と連携し、トップアスリートへの効果的な支援につながる取り組みを進めます。

③スポーツを推進する組織、人材の育成・強化

本町には、体育協会をはじめ、各競技団体、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、レクリエーション協会などが、それぞれの専門性を生かして、町民のスポーツ活動を支えています。

本町のスポーツ活動を効果的に推進するため、体育協会をはじめとするスポーツ関係団体を支援し、育成します。

また、町が実施する各種スポーツ事業に係る協力や運動習慣の定着と健康維持を目的としたニュースポーツの普及などを担うスポーツ推進委員は、本町のスポーツの推進に欠かせない役割を果たしており、研修会等を通じて、一層の資質の向上を図ります。

それぞれの団体が今まで以上に連携を深めることで、更なるスポーツ推進体制の強化を図ります。

④スポーツに関する情報提供の充実

スポーツへの興味や関心を喚起するためには、情報を適切に提供していくことが大切です。

スポーツに関する情報を充実させていくとともに、広報紙や町内掲示板、ホームページ、ＳＮＳといった町の広報媒体と、タウンニュースやJ:COM湘南、湘南さむかわラジオといった民間による広報媒体などを活用し、情報の受け手に合った適切な情報媒体による効果的な広報活動を展開していきます。

また、茅ケ崎市等近隣自治体と緊密な情報連携を図り、地域一体となって、情報提供の充実を図っていきます。

Ⅳ　スポーツを通じた地域活性化

①トップレベルの競技大会の誘致の推進

スポーツの振興を図るうえでは、トップアスリートの技を間近で見ることが重要であることから、「見るスポーツ」についても充実し、スポーツの推進に努めていきます。

また、競技レベルの高い大会等は、町外からの来訪を促進し、まちに交流の機会を創出するとともに、経済の活性化、本町のイメージ、知名度アップにつなげることが期待できます。

例えば、平成 31 年４月に開催した、BMX（フラットランド）、スケートボード（ストリート）、ブレイキンの３つのストリートスポーツの世界大会である ARK LEAGUE（アークリーグ）については、出場選手からも世界最高峰の大会と認識されるとともに、オリンピックやユースオリンピックでも採用もしくは追加種目候補となっており、若い世代にも人気があるといった特長があることから、町の「認知度向上」に大きく寄与するものと考え、本町における初の世界大会として誘致しました。

本町の子どもたちに「本物の技」を見る機会を作ることで、夢や努力の大切さを感じてもらうなど、様々な相乗効果を生み出していくことも可能であることから、ホイールスポーツに限らず、他のスポーツにおいても積極的に競技レベルの高い魅力ある大会等の誘致に取り組みます。

②地域の特色を活かしたスポーツの推進

本町には、幼少の頃よりＢＭＸレーシングにおいて、世界の舞台で活躍し、東京 2020 オリンピックにおいて日本人女性初の代表に内定した選手、そしてＢＭＸフラットランドにおいて幾度も世界チャンピオンとなった選手が在住しており、町外のみならず世界的に注目されている人材が揃っています。

ＢＭＸをはじめマウンテンバイクやスケートボード、インラインスケートなどホイールスポーツに対する機運・関心が今後ますます高まる中、ホイールスポーツは、他の市町村にはない魅力品質として重要なコンテンツと捉えています。

パンプトラックさむかわや民間施設等を最大限に活用するとともに、施設整備などの取り組みを進めている自治体や関係団体との連携による相乗効果によって、若い世代が関心をもつホイールスポーツを核としたストリートスポーツの推進に取り組みます。

③ホームタウンチームとの連携強化

ホームタウンチームの活躍は、町民の一体感やシビックプライド（町に対する町民の誇り）の醸成、本町のイメージや知名度アップにつながることが期待できます。

ホームタウンチームと連携したイベントを開催するなど、ホームタウンチームが地域と交流する機会を充実させることで、チームを応援する一体感の醸成が更に図られるよう取り組みを進めます。

また、ホームタウンチームと連携し、ホームゲームをシティプロモーション（町の認知度向上やイメージアップを図ること）の場として活用し、本町の魅力について情報発信する取り組みにより地域活性化を推進します。

2　成果指標及び進行管理

本計画を実効性のあるものとするため、寒川町スポーツ推進審議会において、計画の進行管理を行います。

また、本計画の推進状況や施策の成果を把握し、評価するため、基本方針ごとに、次の４つの成果指標を設定しました。

Ⅰ　スポーツを通じた健幸づくり

町民の運動・スポーツの習慣化を目指す観点から、次のとおり設定しました。

成果指標	現状値 （令和元年度）	目標値 （令和 11 年）
週に１日以上の運動・スポーツを行う人の割合	44.3%	**65.0%**

※国の第２期「スポーツ基本計画」を参考に目標を設定しました。

Ⅱ　子どものスポーツ活動の充実

スポーツを続けていける子どもを増やし、子どもたちにスポーツの魅力や楽しさを実感できる場の充実を目指す観点から、次のとおり設定しました。

成果指標	現状値 （令和元年度）	目標値 （令和 11 年）
町内の小学生を対象としたスポーツ教室の開催数	１回	**12 回**

※月１回のスポーツ教室開催を目指し、目標値を設定しました。

Ⅲ　スポーツ環境の充実

スポーツ施設利用者の利便性を向上させ、スポーツを快適に楽しめる環境づくりを通じて、日常的に施設に足を運んでもらうことを目的に、次のとおり設定しました。

成果指標	現状値 （令和元年度）	目標値 （令和 11 年）
スポーツ施設年間利用者数	76,050 人	**103,965 人**

※倉見スポーツ公園、田端スポーツ公園、川とのふれあい公園、町営プール、さむかわ庭球場の利用人数の合計です。
※各施設の現状値から 10%増したものを目標値に設定しました。

Ⅳ　スポーツを通じた地域活性化

他の市町村にはない本町特有のホイールスポーツ施設を活用して、町の「認知度向上」、地域の活性化を目指す観点から、次のとおり設定しました。

成果指標	現状値 （令和元年度）	目標値 （令和 11 年）
ホイールスポーツ施設の年間利用者数	6,724 人	**13,448 人**

※現状値は、パンプトラックさむかわとフラットパークの利用人数、目標値は、パンプトラックさむかわ及びホイールスポーツを利用できる町内の民間施設等の利用人数です。
※現状値の２倍の利用者数を目指し、目標値を設定しました。

第６章　計画推進のために

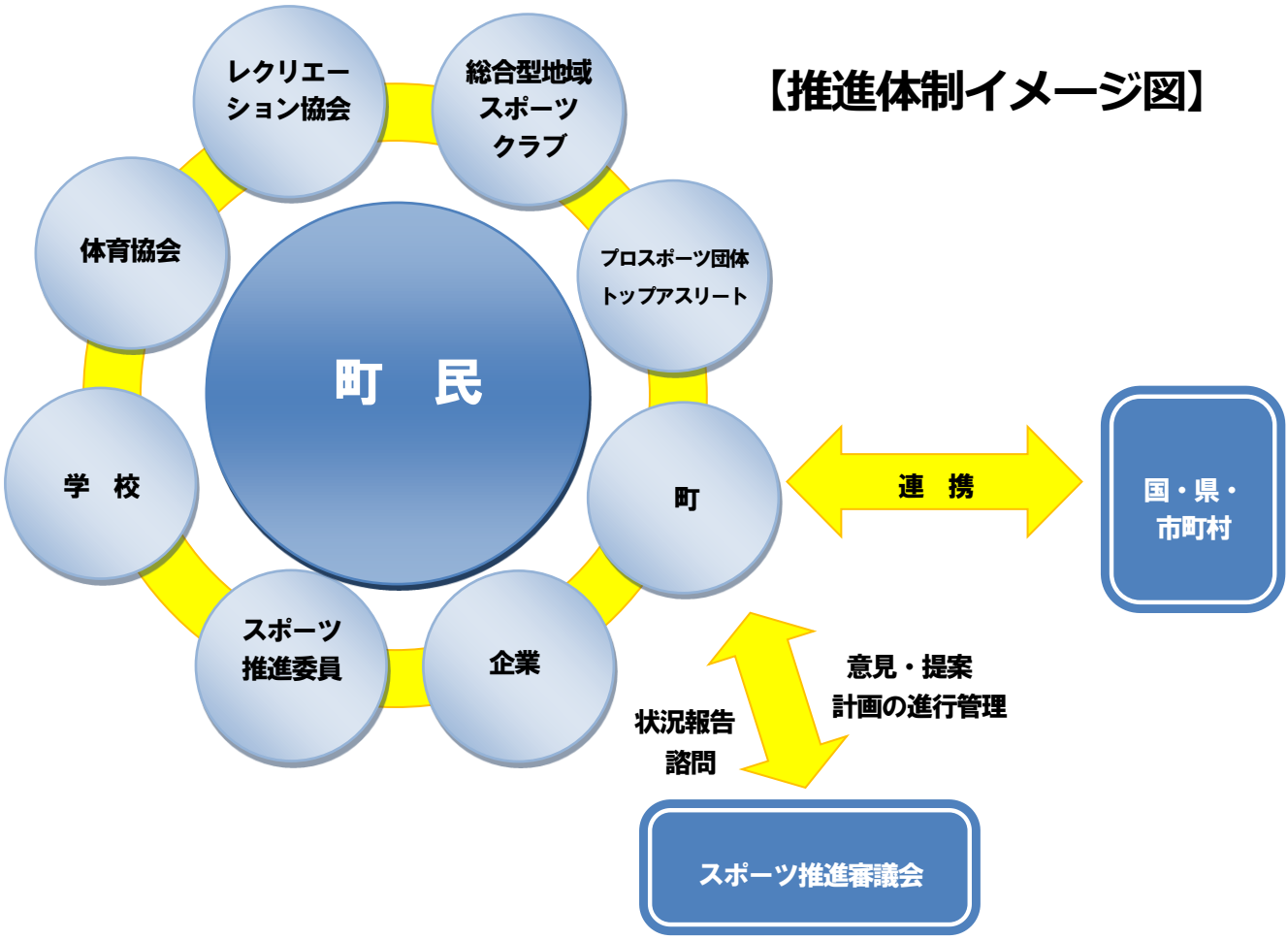
１　推進体制

本計画の基本理念や目標を達成するには、町（行政）の活動だけでは達成することができません。

この計画の主体となる町民を中心に、町、関係団体、企業などが協力し合いながら進めることで、目標を達成することが可能となります。

本計画は、一般町民の代表（公募）、スポーツ団体の代表、学校関係者、学識経験者及び神奈川県スポーツ推進部門の職員で構成される「寒川町スポーツ推進審議会」の意見や、町民の各年代を対象としたアンケートによるスポーツに対する意識調査を参考にしながら策定しました。

町民意識や事業の進捗状況等を分析・検証しながら、基本理念実現に向けた推進を図っていきます。



2　役割

Ⅰ　町民

全ての町民は、自主的なスポーツ活動により健康的な日常生活を送る主体であるとともに、本計画の推進による対象であり、町のスポーツ事業の運営などを支援するスポーツボランティアとしての役割も担います。

Ⅱ　寒川町・行政

本計画を推進する上で、中心的な存在で、基本理念や目標達成のために、効果的なスポーツ推進事業の企画、コーディネイト、また推進体制の連携を維持するための役割を担います。

Ⅲ　寒川町スポーツ推進審議会

寒川町スポーツ推進審議会は、スポーツ推進のための方向性や取り組み、本計画の策定、進捗管理などスポーツ全般にわたる事項について審議・答申するため設置されています。

委員は、スポーツ団体、町内小中学校及び関係機関等からの選出者並びに公募の一般町民により構成され、施設設備の整備・指導者の養成・スポーツ団体の育成など地域に根ざしたスポーツ推進の在り方について審議を行う役割を担います。

Ⅳ　寒川町スポーツ推進委員

寒川町スポーツ推進委員は、スポーツの実技指導、スポーツ活動促進のための組織の育成、スポーツ行事又は事業への協力、住民一般に対しスポーツについての理解を深めることなどを行っています。また、ニュースポーツ普及の指導的役割も担います。

Ⅴ　学校

身近な地域で町民が利用できる体育施設を開放し、町民にスポーツ活動の場を提供する役割を担います。

また、部活動については、子どもたちにスポーツの場を提供します。

Ⅵ　寒川町体育協会・寒川町レクリエーション協会

種目別大会の開催や指導者の育成・確保などの活動を行い、競技力の向上、また気軽にスポーツを楽しめる活動の場や機会の提供に貢献する役割を担います。

Ⅶ　総合型地域スポーツクラブ

町民の誰もが身近な地域でスポーツに親しめるよう、多種多様のスポーツ事業を企画、実施し、生涯スポーツ社会を実現、また地域のコミュニティの形成に貢献する役割を担います。

Ⅷ　プロスポーツ団体

プロスポーツを通して、スポーツの楽しさ、素晴らしさを伝え、町民のスポーツ活動への意欲をかき立てる役割を担います。

また、町内小学校を巡回し、スポーツ指導を実施するなど、将来のスポーツ界をしょって立つ子どもたちにスポーツへの関心を高める役割も担います。

Ⅸ　企業

企業内のスポーツ環境の整備に努め、またスポーツ施設を一般町民へ開放するなど、町内のスポーツ活動の推進に協力する役割を担います。